私が一番心に残っているのは「権力は常に監視しなければならない」という言葉です。権力が暴走してしまうといずれ何らかの欠陥によって国は崩れてしまうと思います。それを防ぐためには誰かが見張っておく必要があり、その役割を担っているのがメディアなんだと初めて知りました。私たちも権力を監視する役割があるとは思いますが、私は自分の生活のことで正直いっぱいいっぱいで権力を常日頃から目を光らせてずっと見ていることはできません。そうやって監視することができていない時もあるのに権力が暴走していないのは、メディアが監視し、新聞などの記事にして私たちの目の届きやすいところに届けてくれているからなのかなと思いました。それ以外にも、人々が必要としている情報を考えて取材して文章にして伝えることで、私たちは助けられていたんだなと感じました。私は文章を書いたりすることが苦手なので新聞記者になろうとは思えませんが、すごくかっこいい仕事だなと思いました。

今回の講演会を聞いてまず一番に、こんなにも大変な思いをされて作られている新聞を、１日に１つの記事だけでも読もうと思いました。新聞記者の方の言葉で心に残っている言葉があります。それは「権力は常に監視しなければならない」です。今の世の中は、平等であることが重視されているようにも思われるけど、中にはやっぱり強い権力の者がすべてを制し、誰も意見を出せなくて起きている問題もあります。これらの問題を、取材することで明かしたり、未然に防いだりできるのであれば、それが私のやりがいと言っておられて、自分だったら怖くて踏み入れることが出来ないと思うので、新聞記者の方々はすごいなと思いました。他にも、阪神淡路大震災について継承していきたいと強く思っておられて、正直、新聞記者の方々がそんなにも熱意を込めて仕事に取り組まれているとは思っていなかったので、締め切りがあったりギリギリで飛び込んでくるニュースもあったりする中で、強い使命感を持って、更には楽しんで仕事をされていて尊敬しました。

今まで、たまにしか読んでこなかった新聞の裏側を知ることができて、もっと大切に読もうと思った。三好さんの、新聞記者を目指した動機が有名人に出会いたかったからだと知って、不純な動機だと思いつつも、何かを目指す動機は崇高な理由ではなくてもいいんだと思えるようになった。自分は文章を書くことが苦手だから、人々が読みたくなるような面白い記事は書けないと思っている。それに、会社に泊まったり、さまざまなところに出張に行ったりすることも負担が大きいことだと思う。そんなことを日常的に行う新聞記者さんは尊敬できる人だと思った。考えたこともなかった新聞記者の道も少しは考えてみてもいいのかなと思った。見出しに注目したことは無かったけど、見ただけで本文の内容がわかるように簡潔にまとめることができるのはすごい技術だと思った。わかりやすい文章を書くときは、逆三角形がいいと教わった。教わった技術を、文章を書くときに発揮できるようにがんばっていきたいと思う。

私の家では新聞をとっていますが、あまり詳しく見ることはありませんでした。ですが、新聞がどれだけ人が見やすくなるように、レイアウトを考えているかなどを知りました。普段、ニュースなどを見て心が痛むような報道が多くありますが、それをスクープし我々に届けてくださる方たちも、私たちと同じくらい、もしくはもっと心の痛みを感じているんだなと思いました。また、最近では大きな地震が起こってしまいましたが、その際には避難所暮らしで役に立つ情報などを出していることを初めて知りました。ネットニュースはよく読むのですが、確かに私の知りたい情報、見たい情報のみを見ているので自分の視野が狭まってしまっているのかなと思いました。これからは少しでも新聞を読み、自分のためになる情報を多く仕入れることができたらいいと思いました。

新聞記者になってみたいと本当に少し思いました。話を聞いているととてもやりがいを感じそうだし、忙しい分充実しそうだと思ったからです。でも簡単にはなれないし、たくさんの知識を身につけるために勉強

もしっかりしないといけません。私の家は新聞をとっていないから新聞を読んだことがなかったです。課題で出て読むようになってから面白いかもと思うようになりました。あんなに字がたくさん書いてあるけど、写真もあって、大事なところだけを書いてくれているから読みやすいし、すごいなと思いました。おばあちゃんの家は新聞をとっているので、また読ませてもらいたいなと思いました。

新聞記者に対して堅いイメージが私のなかであったけれど、講演会を通して新聞記者の仕事はほかでは得られないような体験がたくさんできて素敵なお仕事だなと思いました。新聞記者になった原点は平和と話されていた時、広島・長崎の原爆の話や私の住む近くで起こった姫路大空襲の話のほかにも、今まで知らなかった戦争の話をたくさん知ることができました。正月に起こった能登半島地震のときツイッターでデマを流した人がいてみんなが混乱してしまったという話を聞きました。そんな中、新聞が事実を伝えることで安心できたと思うので、新聞はわたしたちの生活になくてはならないものだなと思いました。また、新聞を作る際の「逆三角形」という言葉を初めて知りました。「逆三角形」とは、はじめに結論を書き、そのあとに説明する、新聞記事の書き方だそうです。一目で読者に伝えたいことを伝え、深夜に飛び込んできたニュースを入れたい場合も最初に結論を書いているので後半は削ることができるのが理由と知りました。読者に新しいニュースを正確に伝えるために色んな工夫がしてありすごいなと思いました。

私の家でも神戸新聞をとっていて新聞は毎日目にしていたけれど新聞社の方がどのように取材をしているのかや、記事を書く際の工夫など考えたことが無かったことを２時間の間にたくさん知ることができてとてもいい経験になりました。印象に残ったのは記事の書き方についてです。５ｗ１ｈや逆三角形を使うことで短い文でも見る人に大事なことが伝わるようにしているというのを初めて知りました。大谷翔平選手についての二つの情報があって、どうすれば二つともの情報を取り入れてもっと短い見出しにできるかを考えたとき、まったく思いつかなかったけれど、たった６文字で表すことができているのを見てとても驚きました。災害を記録して、新聞を通してたくさんの人に伝えることで、学んだことを風化させないようにしたり、同じことを繰り返して犠牲者を増やしてしまわないようにしたり、新聞にはいろんな役割があると学びました。 新聞社の方の仕事や魅力を知ることができたので、これからいつもとは違う視点からでも新聞を読んでみようと思いました。SNS でも情報が得られるけど、新聞にしかない良さもあると思うので、新聞はずっと身近にあり続けてほしいと思いました。

有名人にあって話をしたり、有名な場所に直接行って街並みを観光したり、普通の人ではできないことや、行けないところに、取材のために仕事として訪れるのは、私たち一般人からしてはとてもうらやましい事だけど、地震でぐちゃぐちゃになった街や事故現場や殺人現場に行かないといけなかったり、犯罪者や遺族の方に話をきかないといけなかったりと、楽しかったり、うれしかったりすることを上回るくらいの辛い事に直面しないといけないのが、とてもたいへんだなと思いました。新聞社は、正直地味な仕事だと思っていたけど、犯罪者に直接インタビューをするなど、命の危険も感じるようなとても恐ろしい気持ちをかかえながら取材して、命がけで新聞社の人は仕事をしていることを知って、新聞社の大変さを学びました。読者に目を向けられるような見出しを考えたり、情報を簡潔にまとめたりと、新聞って紙いっぱいに小さい文字が書かれていて、これを毎日行っていると考えるととてもすごいなと思いました。様々な状況の中で取材に行って心を痛める日々も多いとおっしゃっておられて、新聞社の仕事を続けて私たちに情報発信するために新聞を作ってくださっていることに感謝でいっぱいです。私は新聞の小さい文字が紙いっぱいに書かれているのを読むのは好きな方ではないですが、学校の週末課題で出る新聞の切り抜きで少しずつ慣れて、小さい文字で紙いっぱいに書かれた文を素早く理解できるように読む早さ・まとめる力を、これからの週末課題を通して成長していけたらなと思いました。